各　位

2003 年 4 月 10 日

中外ファーマ・ユー・エス・エー社研究部門の閉鎖について

中外製薬株式会社[本社：東京都中央区／社長：永山 治]（以下、中外製薬）は、１００％子会社である中外ファーマ・ユー・エス・エー社［本社：米国カリフォルニア州サン・ディエゴ市／ＣＥＯ：Dr.David Mazzo]（以下、ＣＰＵＳＡ）の研究部門を閉鎖することを決定しましたのでお知らせいたします。

中外製薬は現在、昨年 10 月にスタートしたロシュとの戦略的アライアンスを最大限に活用した事業展開を通じて、できるだけ早期にグローバルな経営基盤を有する国内有数の研究開発型製薬企業としてさらなる発展をすべく、売上シナジー（売上生産性の向上)、コストシナジー（コスト構造の改善)、研究開発シナジー（研究効率の改善および開発パイプラインの進展）の最大化に全社を挙げて取り組んでいます。
なかでも、研究・生産立地の再編は不可欠な課題と認識し、これまで松永工場の閉鎖、高岡工場の売却、高田研究所の閉鎖を決断するなどしてきましたが、今回のＣＰＵＳＡ研究事業の閉鎖も、そうしたアライアンスシナジーを最大限に発揮させた中での費用構造改革の推進、換言すれば創薬テーマのポートフォリオにおいて戦略領域に重点を置いた資源配分を実施すべく、決定した次第です。

この決定により、ＣＰＵＳＡの研究部門は 7 月 7 日をもって閉鎖され、研究に携わる約 50 名の従業員は解雇されることになりますが、雇用支援プログラムによるサポートや、米国パロ・アルト市にあるロシュ研究施設への再雇用の可能性を提供するなど、再就職の支援を行う予定です。
なお、現在ＣＰＵＳＡで行われている研究プロジェクトは、ロシュまたは中外製薬の研究所に引継がれる予定です。

中外製薬は、新生ＣＰＵＳＡを米国における開発事業およびマーケティングの分野へ注力させることにより、中外グループの国際的ビジネスのさらなる発展に貢献すると確信しております。

以上